

件 名	第 54 回 水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム 開催結果概要
テーマ	神奈川の ^{もり} 森林と水 ～どうする？未来に向けた新たな一歩～
日 時	令和6年8月24日（土）13:00～15:40（展示会場のみ 12:15～16:00）
会 場	横浜シンポジア（横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル9階）
内 容	1 開催趣旨 県民の意志を施策に反映するために設置された県民会議が、水源環境保全・再生施策の15年の取組を総合的に評価し、大綱終了後の取組について意見書を県に提出した。 県民目線で行った評価を県民に向けて発信し、危機的状況から回復を見せつつある水源環境を知ってもらうとともに、この間の環境変化への対応など意見書の内容を踏まえ県民の意見を収集することを目的として開催する。 2 開催内容（講演会） 〔1〕開会挨拶（5分） 土屋 俊幸（水源環境保全・再生かながわ県民会議座長） 〔2〕水源環境保全・再生施策の成果、評価と課題（40分） 吉村 千洋 氏（東京工業大学 環境・社会理工学院 教授） 〔3〕市民事業支援補助団体の活動紹介（20分） ・特定非営利活動法人 東海大学地域環境ネットワーク ・特定非営利活動法人 かながわ森林インストラクターの会 【映像】 ・特定非営利活動法人 四十八瀬川自然村 ・湘南二宮・ふるさと炭焼き会 〔4〕講演（講演20分×2名） ・石川 芳治 氏（砂防図書館 館長） 『異常気象と森林の関係について』 ・長谷川 理恵 氏（秦野市森林組合 技師） 『森と未来』 〔5〕質疑応答（20分） ・土屋 俊幸 氏（水源環境保全・再生かながわ県民会議座長） ・吉村 千洋 氏（東京工業大学 環境・社会理工学院 教授） ・石川 芳治 氏（砂防図書館 館長） ・長谷川 理恵 氏（秦野市森林組合 技師） 〔その他〕会場では次の展示等を実施。 ● 市民事業支援補助団体「活動展」 ・特定非営利活動法人 東海大学地域環境ネットワーク ・特定非営利活動法人 森林インストラクターの会

	● パネル展 ・水源環境保全・再生施策展示パネル ・第 52 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム質問パネル ・第 46 回「全日本中学生水の作文コンクール」神奈川県優秀作文 ・もう一つの震災復興 ・神奈川県レッドデータブック 2022 植物編 ・自然公園指導員パネル ・森林再生パートナーパネル ・やまなみ五湖パネル 3 参加者数 対面：106 名/オンライン：58 名 4 開催効果 ・講演では、3 名の講師の方から御講演いただき、それぞれの視点から水源環境保全・再生施策の取組内容、成果及び評価と課題の紹介、現場の状況に関する情報を発信することができた。 ・市民団体の活動紹介では、展示会場にて 2 団体、映像で 2 団体が補助金制度概要やこれまでの活動紹介を行い、広報をすることができた。 ・展示会では、参加者に水源地域の情報や前回フォーラムの質問を紹介するとともに、市民活動団体同士の交流も図ることができた。 ・質疑応答では、参加者からの質問を紹介し、理解促進を図ることができた。また、水源環境保全・再生施策に対する参加者の意見を収集することができた。 5 主催 水源環境保全・再生かながわ県民会議 ・県民会議委員の計 13 名が受付、会場運営、司会、登壇者を担当した。
特記事項	なし

参考（当日の様子）



講演会場の様子



質疑応答の様子



活動展の様子



市民団体活動紹介の様子



パネル展の様子



かながわ しずくちゃんの演出

第54回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム アンケート集計

令和6年8月24日(土)
場所:横浜シンポジア

【参加者数】

対面：106名 オンライン：58名

【アンケート集計結果】

◎回答数 104 名

【回答者情報】

◎居住地

1	県内	98
2	県外	4
3	回答なし	2
計		104

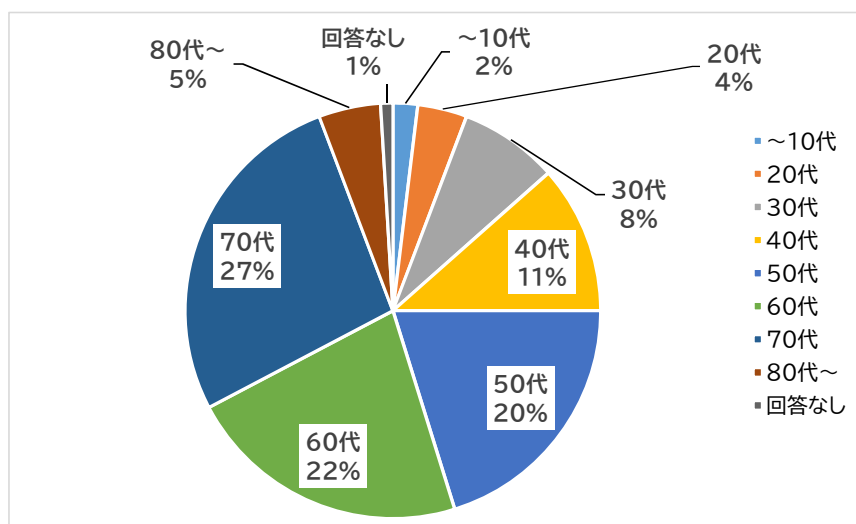
(内訳)

県内：	横浜市 20名	川崎市 9名	伊勢原市 8名	相模原市 7名
	小田原市 6名	平塚市 6名	山北町 6名	秦野市 5名
	藤沢市 5名	海老名市 4名	厚木市 4名	茅ヶ崎市 3名
	大和市 2名	座間市 2名	鎌倉市 2名	横須賀市 1名
	綾瀬市 1名	愛川町 1名	箱根町 1名	清川村 1名
	二宮町 1名	湯河原町 1名	大磯町 1名	松田町 1名

県外： 東京都 4名

◎年齢

1	～10代	2
2	20代	4
3	30代	8
4	40代	12
5	50代	21
6	60代	23
7	70代	28
8	80代～	5
9	回答なし	1
計		104

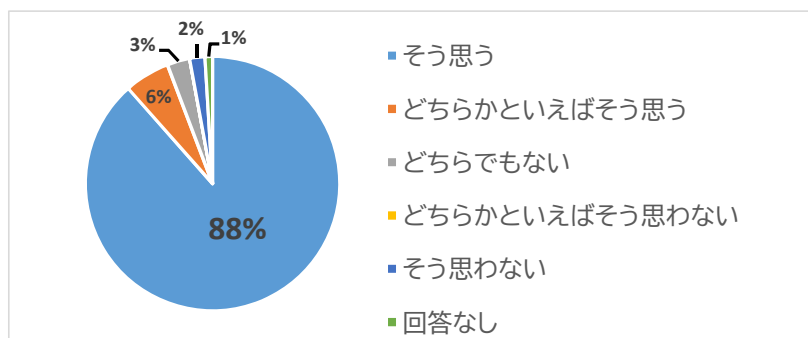


Q1 水源環境保全・再生かながわ県民会議が作成した意見書の内容について

(1) 大綱期間終了後の県の取組に係る基本的考え方(総論)で示した次の意見に対し、あなたの考えに近い選択肢(1～5)を選び○をつけてください。

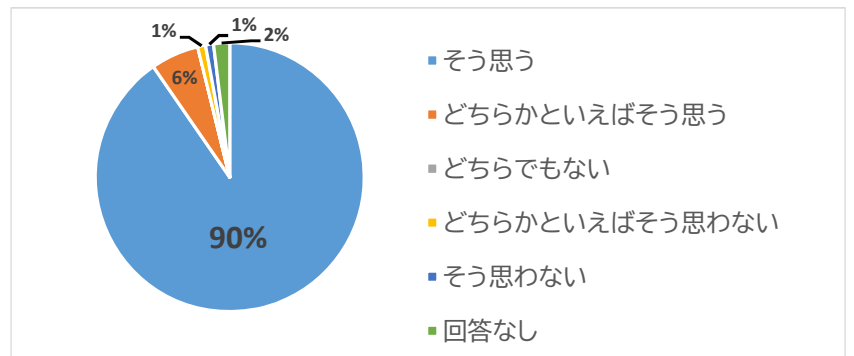
① これまでの取組により回復した水源環境を次世代に引き継ぎ、施策の効果を無に帰すことなく維持していくことが重要である。

1	そう思う	92
2	どちらかといえばそう思う	6
3	どちらでもない	3
4	どちらかといえばそう思わない	0
5	そう思わない	2
6	回答なし	1
計		104



② 森林や河川の多面的機能を確実に発揮させるため、長期的な展望をもって施策を展開することが重要である。

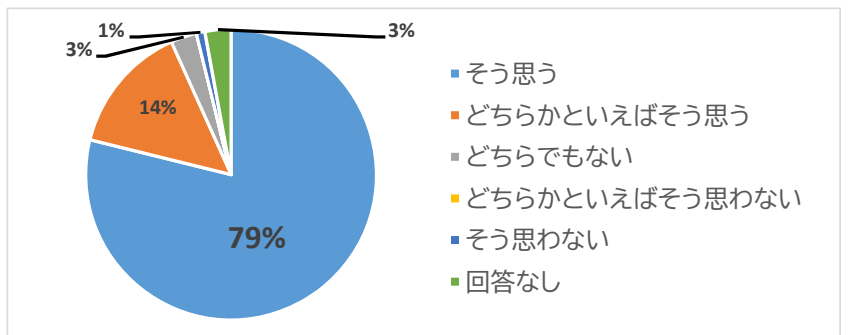
1	そう思う	94
2	どちらかといえばそう思う	6
3	どちらでもない	0
4	どちらかといえばそう思わない	1
5	そう思わない	1
6	回答なし	2
計		104



③ 順応的管理※、県民の意志を基盤とした施策に、今後も長期的かつ効果的に取り組んでいくことが必要である。

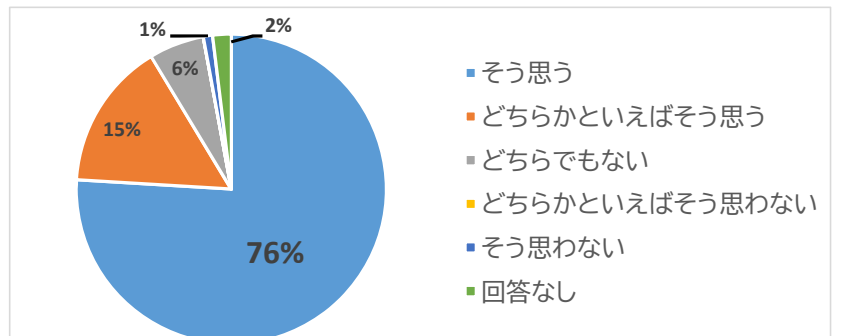
※ モニタリング結果や最新の科学的知見により、必要な計画を見直すもの

1	そう思う	82
2	どちらかといえばそう思う	15
3	どちらでもない	3
4	どちらかといえばそう思わない	0
5	そう思わない	1
6	回答なし	3
計		104



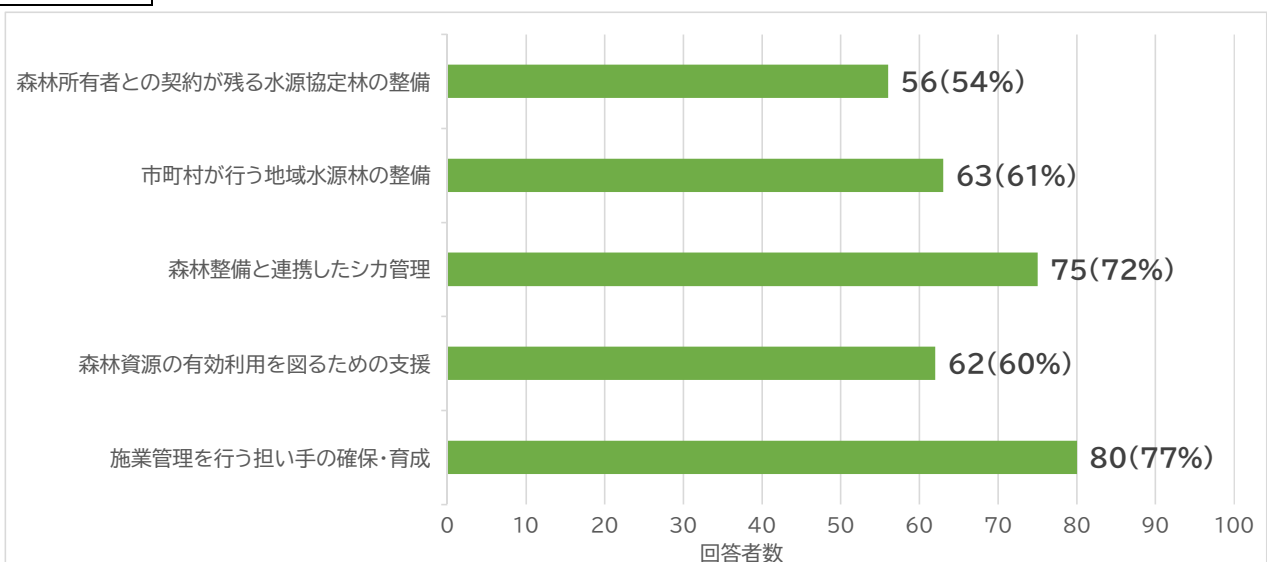
④ 良好な水源環境を中長期的に維持していくためには、県民との協働・連携が不可欠である。

1	そう思う	79
2	どちらかといえばそう思う	16
3	どちらでもない	6
4	どちらかといえばそう思わない	0
5	そう思わない	1
6	回答なし	2
計		104

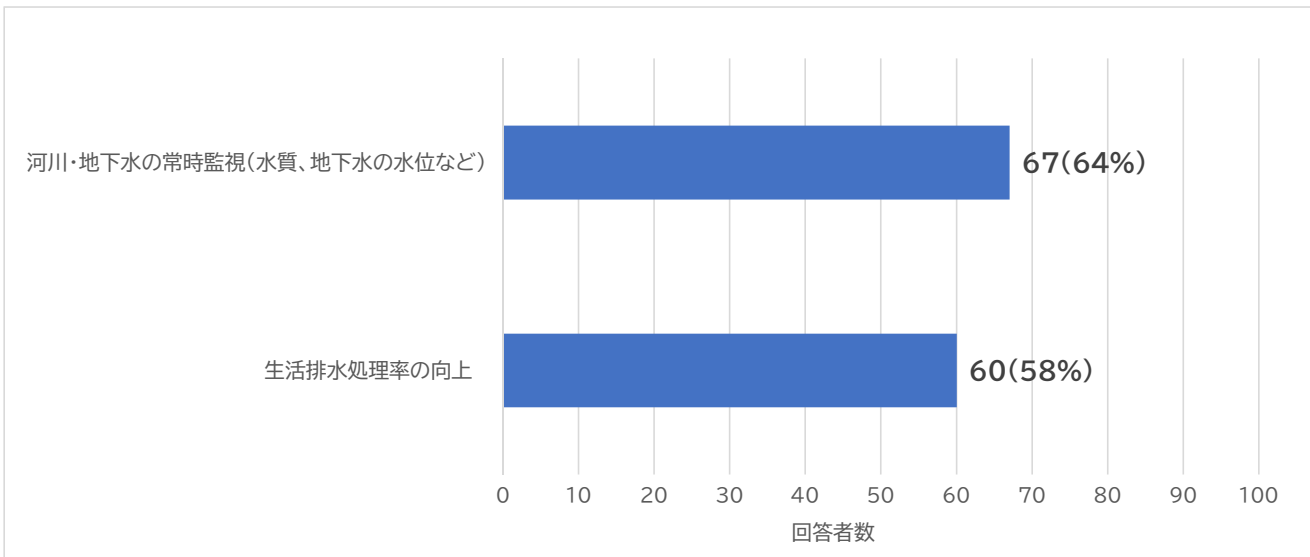


(2) 県に期待する今後の取組(各論)で示した以下の取組について、大綱期間終了後も必要と考える取組について○をつけてください。(複数選択可)

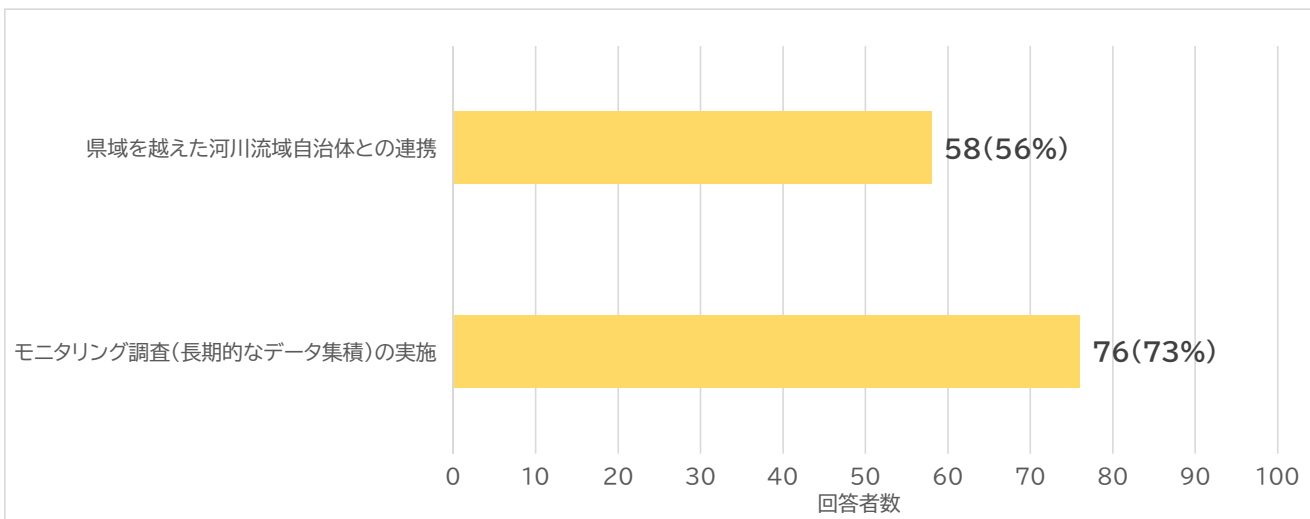
森林関係事業



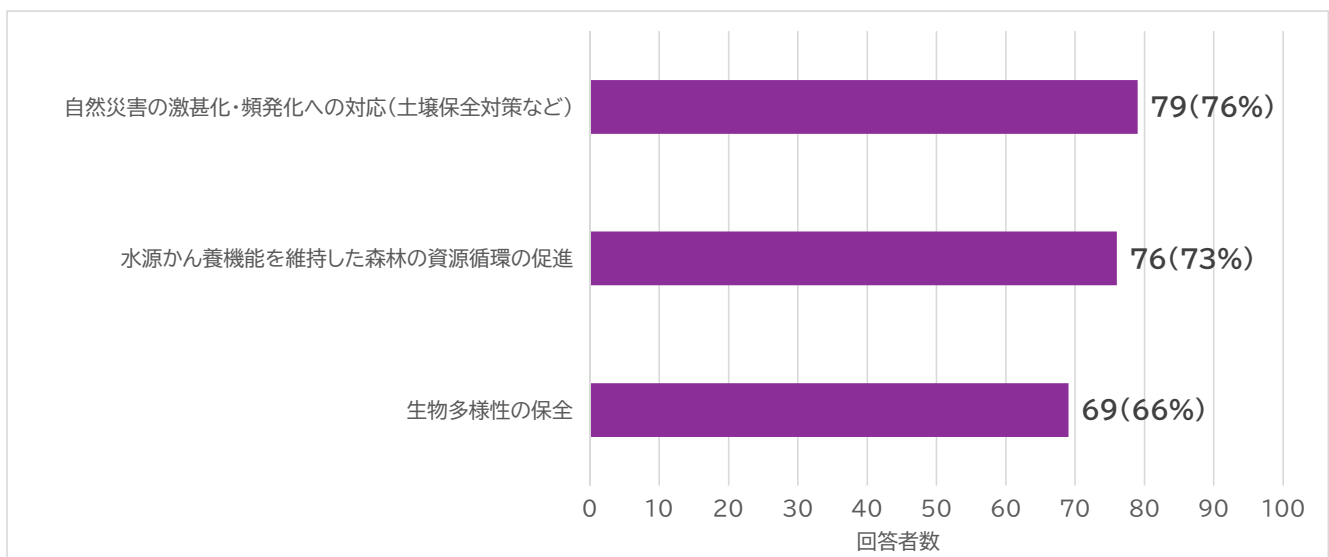
水関係事業



取組を支える仕組み等



環境と社会の変化への対応

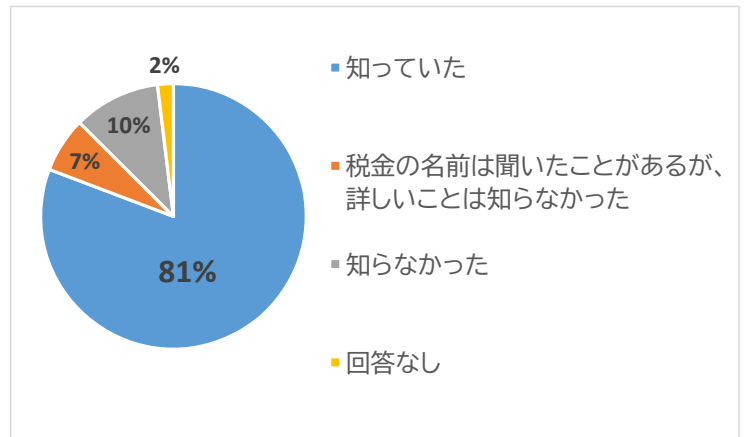


Q2 Q1（2）及び意見書に記載の取組以外に今後の水源環境保全・再生の取組として、必要と考える取組があれば記入してください。

※Q5と併せて最後に記載

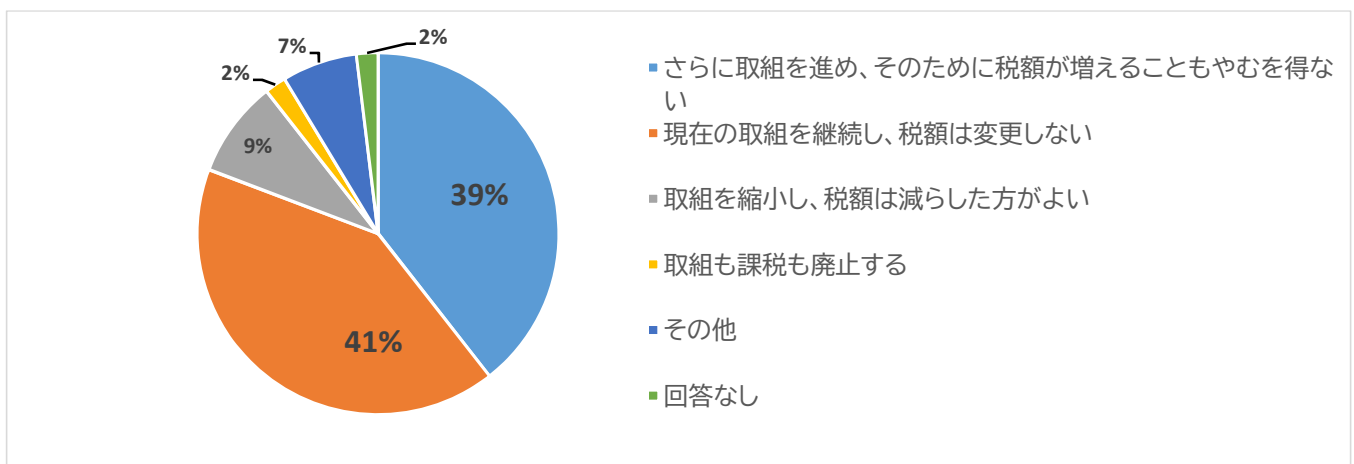
Q3 神奈川県では、平成19年度から個人県民税の超過課税（水源環境保全税：納税者 一人当たり年額約880円※令和6年度）を財源に水源環境の保全・再生に取り組んでいます。このことについて、ご存知でしたか。

1	知っていた	84
2	税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らなかった	7
3	知らなかった	11
4	回答なし	2
計		104



Q4 「水源環境保全税」を財源にした水源環境保全・再生の取組について、今後どのようにしたらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

1	さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない	41
2	現在の取組を継続し、税額は変更しない	43
3	取組を縮小し、税額は減らした方がよい	9
4	取組も課税も廃止する	2
5	その他	7
6	回答なし	2
計		104



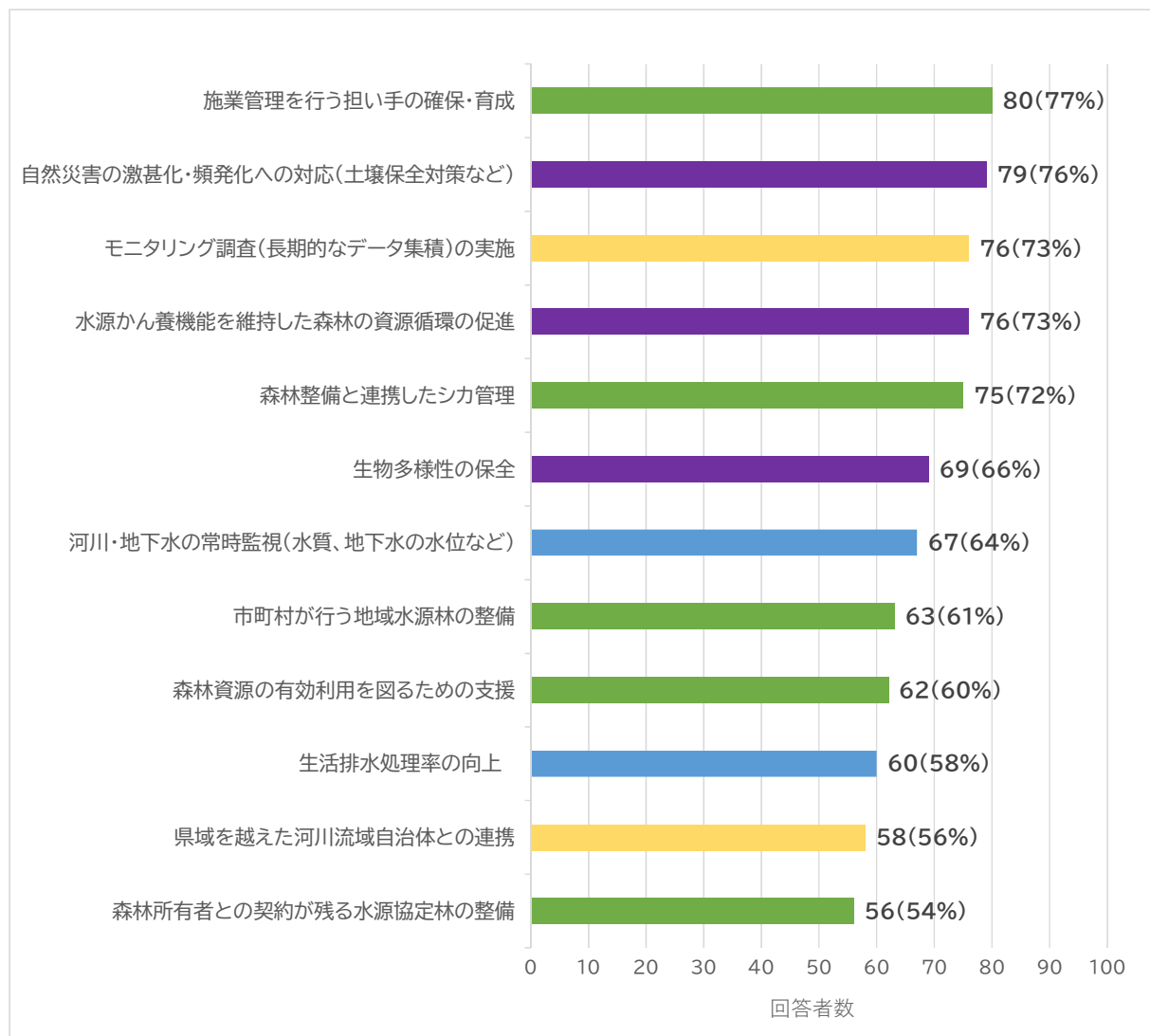
（5 その他のコメント）

- ・森林の活用は市民の楽しみとなる活動をしてほしい。
- ・必要な施策を実施し、それに見合った負担は理解します。
- ・取組の内容を県民参加で再検討してすすめる。
- ・目標に向かって必要な取組を

Q5 本日の講演や団体による活動紹介、パネル展示など、県民フォーラム全体を通じ、ご意見やご感想があれば記入してください。

※Q2と併せて最後に記載

Q1 (2) まとめ



Q2 水源環境保全・再生の取組を今後どのようにしていくべきか、ご意見をお聞かせください。

	意見
1	水産事業(海)との連携
2	PFASの問題が浮上しているが水質の取組みとして重要である
3	・各流域河川ごとにながわ水源の森と県、県民の協働管理拠点を複数設けて、横浜の道志のように、都市部、下流部から、バスなどで訪ね、理解と交流を促す取組みを行う ・水源が外国資本に買われるのかなどの調査 ・森林所有者でも意欲のある人も(代替わりなど)でいる。こうした方の水源林と経営の両立を図る取組を後押しと展開をはかるとりくみも必要
4	補助金に頼らない自然林への転換
5	森林未整備に依る、土壌侵食で長層崩壊を防ぐ努力が必要
6	・全ての県民が森林に赴く仕組 ・山で保全にかかわる仕組を作るべき
7	水源森林環境のない地域の人々にその恩恵を意識させること(考える機会が全くないため)
8	・川崎などの都市部(横浜はみどりが多い・みどりの本当に少ない所)の人々も出来るだけ県西部のことをよくわかる機会が(ヤドリキ水源の森は1年に1回イベント有り)もっとあった方がいいように思いますけれど ・水源森がどんなに大切か理解する勉強!!
9	県のマターではないが森林絡みの税制の調整を少しづつ進めて欲しい
10	神奈川県は他県とくらべても災害が少ないと思います。それは神奈川県がしっかり山の手入れをしてきたからに他ならないので今後も災害の少ない森林づくりを継続してほしいです。
11	20年で返された山林の整備も何らかの方法で継続を望む
12	県産木材の利用を上げる取組み(日本全体としても必要)
13	回復した森林の維持は引き続き重要だと思う。
14	水資源の森林事業の理解向上のための(植樹・間伐体験のみならず)教育・学習の支援が必要
15	国行政充実化→根本的に体制にしてほしい
16	自然災害への環境保全、脱酸素社会への森林保全事業
17	・森林空間の有効活用による森林保全への理解と情報発信 ・水力発電などの再生可能エネルギーの活用による脱炭素化
18	・森林地帯の気候、土質、山の形状、植物の状態などを調べる ・市民が森をたのしめるよう、木材を利用したバンガロー(ログハウス)などを作ってほしい
19	水源協定の契約が終了した山林に関して、公益的機能維持を目的とした森林所有者へのはたらきかけ(新たな契約や支援)

20	環境(譲与)税との使用用途(性質)の違いをしっかりと説明していただきたい
21	せっかくきれいにした山の維持と里山地域など大径木化しすぎた山の若返り、未来を考えて主伐再造林、山造りと環境を維持していく施策に取り組んでもらいたい。未来の林業従事者、地元の人々の為、都市部の水環境のために。
22	支援団体への補助の強化
23	防災に目が向いているため防災機能
24	人工林の整備のさらなる推進とともに広葉樹林の整備の確立
25	・近自然型の遊水地の設置(石狩川下流域のような) ・生物多様性を可視化、モニタリングし、対策につなげる取組(生物多様性マップ)
26	一般市民がもっと森に入れる事業に、森に関われる事業にお金をかけるべきと思う。平行して、林業につこうとする人を育てるシステムづくりこそ、こうした税金を使って実現できないかと思う。私の回りにも林業に興味のある若い人もいるが、農業体験のように身近でないため、情報が遠くなってしまう現実がある。
27	意見書を読み込んでいないので、以下記載されていたらすみません。 もっと県民に水源環境についてアピールしてほしいと思います。蛇口をひねればいくらでも水は出てくるし、横浜市民は三重苦(横浜市ではみどり税)、税金を払いたくないと言っている知人もいます。 改善していることを中心にお話されると安心してしまいますので、保全が必要不可欠であることを訴えることも重要だと思います。
28	丹沢山地、小仏山地、箱根山地を水源コア地域とし、その周辺森林をコアを守る森林として位置付け、その周辺森林存在市町村に対して、コア水源の守り手市町村とし、nbsの考え方により、それら市町村の地域経済を支援し、限界集落化を防ぎ、災害対応可能な建設業や林業者などの生活が守られるようにすることが、県民の水源を維持することに繋がる。世界に誇る次期水源の大綱をこのような視点から作成して欲しい。
29	スギ・ヒノキの植林伐採箇所を、広葉樹の自然林に復活させる。 (実施していないようなので、無理ですね。)
30	県有林・国有林も同様に考えていく必要があるのではないのでしょうか。
31	山・里・川・海 この一連の環境対策には膨大な課題があり、それぞれが深い関係にあります。 今回の講義の水に関しては、すべてに関わるものであり、それぞれを関係づけて議論を展開してもらおうと、内容が大きくなりすぎることもあるかもしれませんが、環境問題がより分かりやすくなるのではないかと思います。
32	・県民との共同イベント ・知ってもらうことが大事
33	新たな課題への対応が、これまでの取組と比べて重要性が変わらないのであれば、進めてほしい。進める際には、その重要性について説明してほしい。
34	上記の取り組みを県民、特に水源地域から(遠く)離れた場所に住む都市部住民の理解を得るべく、効果的な広報活動を行う事。
35	・補助金が本当に必要な事業に割り当てられているか。 ・林業が自立できていない現状をどう考えるか。 ・それを支援することが、再生に繋がることなのか？

Q5 本日の講演や団体による活動紹介、パネル展示など、県民フォーラム全体を通じ、ご意見やご感想があれば記入してください。

	意見
1	全体に良い内容でした。
2	・皆様のご活動はすばらしいのですが、大和市に住む人間として、失礼ながら、知る機会がございません。私は、今回興味が有り参加しておりますが、興味の無い人間に、この活動を知っていただく必要があると思います。 ・私の住む地域では、周辺の小さな森が年々なくなっております。森の機能は、すべて、県西部にお任せしたままで良いのでしょうか…
3	現在のインフレ状況からみると、今の税金金額では不足していくと考えられますので税金が不足するのは仕方ないです。(いのちがかかわっていますから)それをどのようにあげていくか(少しずつか一度に高くするなど)ということですが
4	・大変に分かり易いフォーラムで、有意義でした。 ・今後とも、県民参加の仕組みで、実効を挙げてください。
5	引き続き山に手をを入れて災害や水源かん養機能を維持管理していくのは必須であるとする。水源税の継続は必要である。
6	全ての講演も大変すばらしく、とても有意義でした。
7	最終評価が出たら、是非その内容を知りたい(大綱の終了)。その中には次世代へ向けての方向性と是言を入れて欲しい。
8	行政の本格化取組が必要―外国材は限度がある
9	長期継続的に水源林保全は必要である。可能な限り、水源税により、森林環境整備保全を行ってゆかなければならないと思います。
10	多くの県民にもっと「みえる形」で各種水源施策を進めて欲しい。徴収した税金がどのように使われているか見えるようにしていると思うが、SNS等や電車、バスのポスター等で写真や動画などを使って発信してほしい。
11	間伐材の製品等の展示をしてもよいと思います。環境問題に世界が取り組み始めました。もっとフォーラム、シンポジウムの開催を期待します。
12	水源を守り続けることは継続し続ける以外になく、皆で協力し、助け合い、森林を守っていかなければ山は再び荒れてしまいます。森林を未来に繋げていくためにも水源林を山を整備する施策が必要だと思います。
13	企業パートナーの取り扱いをもう少し大きく取り上げても良い様に思う。
14	このような機会が、より多くなると良いと思います。
15	超過課税について、広く県民から徴収しているものなので、産業税ではなく環境税として使用され、公平なものであるべきと考えます。水源環境保全の次は、生物多様性の保全に取り組むべきと考える。
16	普段から当たり前のようにある「水」は県民が一丸となって守って行き、未来にしっかりと引き継いで行く事が、私たち納税者の義務であると痛感しました。また、一森林整備事業者として、若い人材を育てて行く必要も強く感じました。
17	水源環境保全税による取組の成果を分かりやすく説明していただき、理解が深まりました。
18	長谷川理恵さんの講演が素晴らしかった。内容も分かり易く、現場の取組が理解でき、また、長谷川さんの森林に対する想いが伝わってきた。動画を効果的に使用されていて発表にも工夫されていた。

19	大綱期間終了ということだが、これまで行ってきた施策の効果を維持するため、一定の施策を維持することは大切なことだと思った。
20	質疑応答の時間をもう少し持たせた方が良いと思われる(20分→25～30分)。また、冒頭に施策動画を流した方が初心者には良いと思う。
21	地球温暖化による異常気象や、猛暑や極暑に地球がなっています。しかし、このことを問題と考える人が、あまりにも少ないと感じます。地球に住めなくなることも想定されます。人々に周知するとりくみをお願いします。
22	森林組合の長谷川さんのお話がとてもわかりやすく、現場の悩みも伝わりました。実際に森林現場で活躍する担い手が安心して働けるような取組が何よりも必要と感じます。
23	もう少し時間を長くするなど、時間に余裕が欲しいと思いました。
24	水源を守る取組や意義が理解できた。県民にとって水源を正常に保っていくことは重要なことなので、もっと多くの県民に水源を守ることの重要性和その取組を知ってほしいと思う。
25	意見書の(要旨の)とおり、新たな取組みを含め、取組を継続して行くことの必要性を強く認識しました。
26	本日の講演会場以外にも各市町村(役所)や事業体事務所等にも掲示できるような広告や展示物を配布して欲しい。
27	最近の気候変動に対応した治水、水利用、小学生やこどもへの森林教育、森林育成を担う、将来世代の育成が急務
28	「県のたより」などを活用(特集号もあり)し、大々的に水源・水質の重要性を広く伝えるべきだと思います。
29	映像での団体紹介はよかった。※秦野市森林組合長谷川さんの講演はたいへん感銘を受けました。
30	森と未来の講演がとてもわかりやすく、興味がもてました。
31	長谷川理恵さんの講演が分かりやすくて良かった。県の取り組みについて理解することができた。
32	市民事業支援補助団体の活動についての出展ブースからの中継がよかった。施策の中の位置づけを改めて感じる事ができた。
33	成果が具体的に目に見える形で表れており、長期にわたる計画と着実な実践の成果に大変驚かされました。神奈川県を誇るべき施策として、全国に発信していくべきだと思います。伊吹山との比較もわかりやすくなると思います。
34	・複数回同じ団体の紹介をすることにより認知度を高めるとよいと思いました。 ・長谷川氏のプレゼンはいちばん興味・関心を持っている内容で、興味深く拝聴致しました。
35	・一次産業及び環境保全を事業とする企業を官民一体で作り成長させていく必要がある財源は「コンクリートから自然、環境保護」で転用していく。 ・日本全労働力の一部を同事業への転用に社会構造を変える
36	初めて参加しましたが、内容はともかく具体的に順番がはっきり理解出来ず、わかりやすく進行した方が良いと思う。あれこれ沢山の課題を言われても1, 2課題があれば無理のない様に進めて届いた方が時間が有効に使われるのではないだろうか。何がメインか理解出来にくい。
37	・県民会議委員はどのように選ばれているのでしょうか。選ばれる基準を教えてください。 ・施策の継続の決定権は誰が保有しているのでしょうか。フォーラムでは県民会議委員は県知事に意見をする立場ということをお聞きました。したがって、継続の決定権は県知事が保有していることになるのでしょうか。
38	秦野森林組合長谷川さんの話が現場の現状を感じられて分かりやすかった。一般市民が森に入り、森の空気を感じ木材を使ったりということが一部では行われていること分かりましたが、その輪がもっとひろがるよう願います。 上野原市が下流域の相模川流域地域との交流事業を行っていますが、県域を越えたこうした事業も大事と考えます。

39	・長谷川さんの様に、若い方が3つ子を育てながら、意欲的に森林組合で活躍されているのを心強く思った。 この様なヤングママが、子育てしやすい環境も是非必要と思う。 ・北海道の水源が外国企業に買われている現実を、早く法律で規制するべき。安全な水の水源地を、外国企業が簡単に購入出来るのは、日本だけらしいです。 ・地球沸騰時代に、水源は、国民の命を守る視点からも重要と考えています。 ・相模川を通じて、ナガエツルノゲイトウが増えています。海老名市の水田には、ナガエツルノゲイトウ・ジャンボタニシが既に侵入してしまいました。自治体の対応無し。要請しても除草剤等に対応する様に広報に小さく載っただけ。下流域では爆発的にナガエツルノゲイトウが蔓延してしまいました。 ・水田が巨大倉庫に姿を変えています。既に倉庫11箇所完成。まだ増える。 相模川の清掃活動さへ海老名では全くなし。中流域の責任を、自治体単位の責任として、県から指示して下さい。市民の意見は無視されてしまいます。
40	今回の講演を視聴し、水源環境保全税がどのように使われているかを知る事ができて良かったです。 オンラインでの参加でしたので、パネル展示も詳しく見たかったです。
41	座長の最後の質問回答を県は是非実現して欲しい。よきフォーラムであった。
42	丹沢の山歩きが趣味です。近年痛々しい斜面の崩落などが多く見受けられ、それが原因と思われる登山道の通行止め箇所もあり、将来の丹沢が気になっていました。 今日教えていただいた取組等をさらに進めていただき、丹沢の将来の保全を、お願い致します。
43	団体による活動紹介では、もう少し受けた補助金を活用した内容の伝えて欲しかったです。1団体がチェーンソーを今も使っていることくらいしわからなかったです。すでに報告はされている事なのかもしれませんが、本日も市民事業支援補助団体として紹介されているので、補助金で何をしたかも聞きたかったです。
44	搬出補助金は林業の技術の低下を招いてはいないか。 林業センターに出せば、補助金ももらえる。仕分けや造材が他県ほどではないと思う。水源環境税で県内の事業体も増えたと思うが、その維持が補助金なしにできないと、山はまた荒れる。20年は長い期間だと思うが、林業はもっと長いスパンで物事を考える必要がある、県民みんなが身近な次の世代のことを思って、考える必要がある。高齢級は更新の必要がある、けれど、木の価値は年数にも関係する。一片だけでない物の見方をすると必要があると。この20年のメリットデメリットを洗いざらいし、どう改善していくかが大事。
45	戦後に植えた杉やヒノキを伐採することの重要性は、いろいろな情報から知ってはいたが、ほったらかしになっていると思っていた。特に鎌倉に住んでいると低い山が多いですが、杉が大量にあるところがあるままになっていると感じていた。 神奈川県の水源地と呼ばれるところでは、理論上の整備が18年前から進められていたことを初めて知りました。 災害の危険性の面からも鎌倉などの水源地では、ない地区にももっと木の伐採が進んで欲しいと思いました。
46	大変参考になりました。ありがとうございました。 登壇者の方、お疲れ様でした。
47	水源税のメリットは分かったが、デメリットの検証があまりできていないのではないかと。県民の意思がきちんと反映されているのか。手入れをすることは大事であるが、それに伴う作業道や大型の機械が山に入ることへの影響、川の濁りなどが気になっている。補助金をもらうことではなくて、山をどうするかが1番重要だと思う。

<<参考>>

イベント当日にいただいた御意見・御質問

	施策	講演①	講演②	その他	意見
1	○				【吉村先生のスライド15ページ】 森林の手入れが進んだとのこと説明ですが、数字は森林面積でしょうか。100%は県内の国有林を含む全森林面積でしょうか。 (私有林の中の人工林) また、この成果はどのような活動による効果とお考えでしょうか。 (①～⑤とくに⑤)
2	○				森林環境税とのすみ分けを今後どのようにしていくべきか。
3	○				箱根等におけるシカの拡大について、弱干との説明でしたが、弱干と説明された根拠をお聞きたい。
4	○				大綱期間は、ここで終了するといくことですが、その後はこうした大綱や長期的ビジョンなどをつくったりするのでしょうか。
5	○				取組みの計画や内容、成果をPRしている(県民として知る事ができる)場所・ネット上のサイト等をおしえて下さい。
6	○				気候変動に伴う災害で発生した土壌保全に関して課題として取り上げているが、現状の予算配分や対策がどう進行しているのでしょうか。
7	○				【意見書6ページ】 登山者により水が汚染されていることのことですが湧水の大腸菌検出箇所は県民や登山者に公表されているのでしょうか。私自身登山者です。
8	○				よくわかっていねいな説明をしていただいたので大変良かったです。自分たちの、いのちに直結する問題であります(このためほんとに感謝です) 先生もいわれていたように異常気象のこともあり、これからますます‘WHOのいう地球ふつう’になっていく可能性があり、森林の木も生きていくのに大変にどんどんになっていくと思います。 このことには、お金がかかります。今の県民1人1人の金額でどうでしょうか。たりなくなってくるのではないのでしょうか。すでに大変かもしれないです。いのちを守る大業ですのでこれからむけて、継続の必要と金額の増強も必要と考えますが。
9	○				利用可能な水資源が増加したことは喜ばしいことと思います。ただ気象災害リスクの深刻化への対応が必要だと思います。ダム運用などは企業庁が行うなど各部署との情報共有等が必要だと思います。県の対応を教えてくださいたいと思います。
10	○				費用対効果も含め、森林整備の成果は出だしてると感じた。ただまだ手入れ不足の森林はあるし、継続的に整備する必要性を感じている。
11		○			・戦後植林した人工林の蓄積が増加し、発生流木量は増加傾向にあるとのことのお話でした。森林の増加はCO2の削減には良いことと思われそうですが、一方で、流木による被害が心配になります。 ・砂防など県ではどのような取組みを行っているか教えていただきたいと思います。
12				○	【生物多様性の保全と対応について質問です】 山ビルやマダニに対する対策は進んでいるのでしょうか。山の活動をすすめるうえで害虫対策として殺虫剤・除草剤にかかる費用を申請したところ、補助金の対照にはならないと言われたことがあります。山の仕事をするために身体を危険にさらしています。生物多様性ということで害虫対策が出来ていないとすれば山の入る人が減少すると思う。
13		○			①ドローンでのチェックでの割合(山や土砂災害の出やすいところなど)は現在どの位すすんでいるのでしょうか。 ②またAIをつかえる状況の割合はどの位などでしょうか ③ドローンやAIをつかうための予算枠はきちんとあるのでしょうか ④神奈川県内の〇次谷での山脈崩壊はどの山でしょう
14				○	林業が必要な理由として人工林は整備しないと荒廃するからという話がありました。林業とは木材生産を行うことを認識していますが、上記は間伐などの整備が必要な理由があって、今ある人工材の間伐を進めて混交林化を行う、あるいは郡状で伐って広葉樹を植えるのでも良さそうに感じます。なぜ神奈川県で林業(伐採後にスギヒノキを植える)が必要か、お考えを伺いたいです。

15			○	・森林に関する税制に見直しが必要ではないでしょうか(県の施策とは違うのですが)例えば、横浜市民は3つの税で納税が大変です。
16	○			水源涵養(かんよう)機能を充分に発揮されるための税金において、その成果が出たことは良いことだと思う。税金が上手く使用されたことを県民はもっと知るべきと思う。ご講演ありがとうございました。
17			○	【シカによる下草現状問題について】 現在深刻化されているシカの下草被害は、今突然起きたことではないのでしょうか。例えば江戸時代等のシカによる被害は問題視されていたのでしょうか。今になって問題視される背景には何があるのでしょうか。なぜシカが増えてしまったのでしょうか。
18			○	【石川先生へ】 異常気象は地球温暖化が原因と思われますが、温暖化を止めるには、今、早急に対策を行わなければならないと思います。森林対策や水環境の問題にも直結すると思いますが、どのような対策を行えばいいとお考えでしょうか。また、人々に周知するための施策をお聞かせください。
19	○			0次谷での山腹崩壊と土石流が多発しているとのこと。 0次谷での山地保全対策がとても重要と思いますが、下流域やふもとの住宅にリスクがある場合が優先度が高いと考えます。リスク説明などの注意喚起は、ふもと住民になされているものでしょうか。地域・住民と一体となった対策なのかが気になりました。
20		○		【森林災害防止の観点からの森林の若返り対策について】 ・森林の高齢化により、流木災害や中層崩壊が増加しているとお話でしたが、神奈川でも人工林の若返りが必要と感じています。 ・一方で、森林は高齢になるほど(老齢段階)公益的機能が高くなるとの知見も聞いています。 ・そこで災害や土壌保全の観点から、人工林の若返り対策の必要性や効果について石川先生のお考えをお伺いします。
21			○	戦後植林した人工林が育っていること自体はよいことだと思っていました。管理されなくなると災害の原因を引き起こしやすくなるのでしょうか？
22			○	せっかくきれいにした山を維持継続してほしい。又、時代に応じてより良い山造りを考えてほしい。
23			○	危険木の多い地域等の主伐、再造林、新たな山造りを実行して未来の林業を守っていただきたい。
24			○	人工林は人による管理が必要とのこと。人工林をより自然に近い森林に変えることはできないのでしょうか。
25			○	植木苗木の育成、草刈は大変。何とかありませんか。技術開発でなしに出来ないのでしょうか。
26			○	①林業の必要性がよく分かりました。持続可能な林業のため、講演の始めにありました、林業従事者の高齢化への対策(若い方のリクルートや教育等)としてどのように取り組まれているかをもう少し具体的に詳しく教えていただきたいと思います。 ②高額そうな林業機械が複数ありました。木材価格は一時期よりは上がっているようですが、補助金無しでは機械化等を考えると採算に乗らないのでしょうか。
27			○	森林や山の環境が大切だということがよくわかる講演でした。しかし、そのようなことに関心をもたなければ世の人々には、わからないとおもいます。また、働く人が減っている状況だと言われました。このような状況のことを周知させていただきたいと節に思います。広めるためにはどうしたらよいのでしょうか。
28			○	日本の山は急いゆんな場所が多いので「切って出して植えかえる場所に限りがある」との説明がありました。 このエリアは、「切って出して・・・」が可能な場所、このエリアは「切って出して・・・」が不可の場所に区分することはできるのでしょうか。(区分した地図を作ることは可能？)
29			○	神奈川県のみずがめは、おいしい水で、いのちの源であります。そこへいくまでは大変なご苦労されたと思います。 水源林長期施業受委託事業を推進される皆様のおかげで、私たちは安心安全おいしいお水をいただいております。 8割は賛成して下さるとのこと、あとの2割の、賛成されない方々の、スギ林の写真を見ましたが、困りますよね。 あと所有者の分からない森も沢山あると聞きましたが、これからどのような対策がありますでしょうか。
30		○		講演にあった、中層崩壊に関して具体的な治山事業など対策について教えていただきたいです。

31			○		林齢の高齢級化と流木災害の増加についておはなしがありました。今後いびつな年齢構成を整えていくための生伐植え替えの量についてどう考えますか。
32	○				森林資源の循環にあたり、木材の伐出は主に林道やその他一般道の付近で行われ、県民の生活に割と近い所で行われます。水源の森林としての役割を損なわないために、どのように作業道を作るかは重要な要素で、高密度で作る、崩れるリスクの高い所を通る切土が高い、しっかり転圧しない・・・などは土壌流出の原因となり、水源機能を損なう可能性があります。そうならないために、一定の基準は必要ように思います。(例えば、水源を守るための作業道の基準を県として示し、そのかわり通常より手間がかかるので、補助金などは他県より高めだが、基準を満たさない場合は補助しない、など) 県西と県央でかなり地形が異なるので、一律である必要はないかもしれませんが・・・
33	○				シカの生息状況について、地図上は赤がなくなりましたが、一方で増えた地域があるということは、分散しただけで、総数は減っていないということでしょうか？ 減ってなくても分散すれば良いと考えて良いのでしょうか？
34	○				人工林が林業従事者が減って荒廃したというのはわかるのですが、自然林が荒廃している理由は鹿が増えて下草が食べられたためだけだったのでしょうか？ 又、リン酸塩の濃度？が高いレベルにあるというところ、それは理由はどんなことでしょうか？
35			○		日本の杉で作った皿をイベント用の皿として普及活動をしていますNPO法人游風の竹林と申します。 水源環境の保全で下層植生の重要性についてよくわかりました。間伐によって、下草が生える環境を作ることが大事だと思いますが、この18年間の取組で間伐された木は、主にどの様に活用されたのでしょうか？
36	○			○	1. 東海大の活動で須賀のこどもたちへの環境教育の事例がありましたが、あのあたりのこどもは、どちらかと言えば「海のこども」だろうと推測します。水源環境について伝えることについて、なにか強調したこと・工夫したこと、などおありでしたでしょうか？ 2. 「意見書」の中では、県東部への県民(＝横浜市民・川崎市民)の水源環境についての情報伝達について、なにか特に考えられていますでしょうか？(この点について、次の項目3に続きます。) 3. 本施策で補助金を受けているとして紹介された事業は境川から西の地域対象が主と見受けられますが、予算のかなりの部分を担っている県東住民への施策の「恩恵」はもっと具体的にはありますでしょうか。極論すれば「水道代を払えばいいじゃないか」の論旨を進めることも十分可能だと思いますが。
37	○				これまで20年、1,000億以上をかけて取り組んでこられたので、成果が出てくれないと困る、成果が出て当たり前という感想を持っていますが、これからも維持していくために施策が必要なのであれば、危機的状況を脱するのはレベルが違うと思うので、その部分の規模は絞られるものと思っていますが、いかがでしょうか。あと、これまでの取組と新たな課題への対応、その重要性は変わらないものなのでしょうか。お考えを聞ければと思います。
38	○				大綱について 自然や森林からみると20年は長期ではない。 100年先を見据えた長期的な視点に立った施策が必要ではないか。 また、2027年以降の当面の方向性を示す第2期大綱を策定する予定はあるのか。